

日本初・介護予防サービス で大成功!

「健康的なシニアライフの創造」を理念に、日本で初めて「介護予防サービス」を専門的に手がけるイー・ライフ・グループの小川社長にお話を伺います。急速な高齢化に伴い、介護市場も巨大化。しかし、半数は手厚い介護を必要としない軽度な人たちだといいます。イー・ライフは、そんな軽度者に特化したフィットネス型デイサービス施設を全国に展開。食事・風呂・昼寝・レクリエーション一切なし! 驚きの介護予防の取り組みに迫ります。



イー・ライフ・グループ株式会社 代表取締役社長 小川義行氏

介護業界の常識を変えたサービス

イー・ライフは、独立当初から行っていたバリアフリー住宅専門のリフォーム事業を縮小し、2006年からフィットネス型デイサービス施設「nagomi」をスタート。大きな特徴は、利用者を脳梗塞・脳卒中でリハビリが必要な人たちや生活習慣病患者など、介護認定の軽い人たちに限定したことだ。その結果、介護保険を活用しながらも、まったく新しい介護サービスのビジネスモデルを生み出すことに成功した。

「それまでやって当然だった、食事・風呂・昼寝・レクリエーションのフルサービスを一切なくして、運動機能回復のための訓練、その一点に集中することにしました。この方法なら、高齢者が元気になることで利益を出し、介護費用も削減することができます。しかし、チェイン展開するためにはいくつか超えなければならぬ壁がありました。その一つが、人・箱・メニューの体系化です。人については100%正社員に。特に体育会系の男性インストラクターを多く採用し、スポーティなイメージの施設を目指しました。箱となる店舗は、部材も家具もすべて統一。メニューにはマシンは使わず、1クラス15名限定のレッスン型のエクササイズとしました。もともと頭を悩ませたのは、再現性のあるプログラムの開発ですが、ヒントになったのは、ラジオ体操でした。子どもの頃から慣れ親しんだラジオ体操を応用し、身体の可動域を広げるトレーニングを行うことで、機能回復の度合いが自分でもよくわかる。それがまた、励みにもなるのです。さらにデータを大学などで検証してもらうことで、科学的根拠も持とうと。現在は、これを146店舗すべてで行っています」



メンバー同士のストレッチ及び筋力トレーニング



雑談しながらのティータイム

目標だという。

「一つは、もともとやっていたバリアフリー住宅事業。この4月からは、新しく訪問入浴サービスを始めます。nagomiから介護度が下がってしまった方、自分でお風呂に入れなくなりました方へのサービスの提供です。訪問入浴は設備投資が重いので、中小企業の参入は難しいと言われてきましたが、われわれは顧客を持っている状態からスタートできるメリットがあること。また、浴槽も一からデザインし、軽量化が測れることでスタッフの労働も軽減できること。デイサービスと同じように固定スタッフで対応できることなど、顧客満足と社員満足を両方得られ、かつnagomiの第2ブランドという位置付けで、早期に市場を拡大できるのではないかと思っています。従来の介護事業に風穴を開けていきたい」

さらには海外展開も視野に入れ、すでにマレーシアでの活動が始まっているという。

「10年後、20年後、この地で介護事業を行う足がかりとして、現在はキッズ事業を展開しています。高度経済成長のただ中にあるマレーシアでは共働きが一般的。ですが、天候や治安の問題から、なかなか外で遊ばせることができない。そこで、われわれがショッピングモールの中に子ども用の屋内遊園地をつくり、そこで思いっきり遊んでもらおうという試みです」

現在は6店舗目を展開中と、たしかに実績を築いているイー・ライフグループ。介護予防事業ナンバーワンカンパニーの未来に注目していきたい。



すべてのひとに
ハッピーシニア
ライフを
日本医療企画
¥1,470(税込)

小川義行(おがわよしゆき)

1971年、埼玉県生まれ。「野球で親に家を建てる」を目標に、埼玉栄高等学校、拓殖大学政経学部経済学科に進む。大学3年のとき、肩の故障に伴い、野球を一旦断念。大学卒業後、大手損害保険会社に入社。半年後、「肩を治してもう一度野球をしないか」とスカウトから話があり、打撃投手として日本ハムファイターズに入団。退団後、フリーターを経て大手住宅リフォーム会社に入社、全国No1の営業成績を残す。1999年、イー・ライフ・グループ株式会社の前身であるテックオガワ株式会社設立、代表取締役に就任。現在に至る。

【イー・ライフグループ株式会社】<https://www.ii-life.co.jp/>



腹式呼吸を取り入れた「ここちヨガ」



店舗「nagomi」外観